

【空からの恵み】

翔凜中学校 三年 海老原 汐音

私は、雨が嫌いです。駅までの二十分ほど自転車でごく道が、いつも以上に憂鬱で、長く感じるからです。前が見えにくくなり、おまけに朝から制服が濡れてテンションも下がってしまいます。

雨が降っていると外出もなかなかできず、その時は空から降ってくる水が「恵みの雨」とも呼ばれることに、心から同意はできませんでした。「なぜ、雨を大切に守ろうとするのか。」その疑問が、今回の作文を書くきっかけとなりました。

日本は水産資源が豊かな国です。魚類や貝類などは、私たちの生活に欠かせないものです。これらの資源は、雨と密接な関係があります。そして、その雨は、私たちの生活を写し出しているのではないのでしょうか。

その一つの事例が、酸性雨の被害です。酸性雨ができるのは、主に工場や自動車などから出る排気ガスが原因です。「工場の排気ガスの方が酷い」と思う人もいるかもしれませんが。

しかし実際は、私たちが出す排気ガスの方が影響を及ぼしていると思います。工場から発生する排気ガスは、「大気汚染防止法」および「悪臭防止法」によって規制されており、一定の排出量を超えないように義務付けられています。特に大企業などで問題が起これば、すぐにニュースになります。「〇〇の工場が有害な物質を排出したことが発覚」などというニュースを、一度は見たことがあるでしょう。工場の排気ガスは、常に私たち国民から厳しく監視されているのです。

しかし、私たちはどうでしょう。自動車で長い距離を走っても、何も非難されません。車の排気量ごとの税金は存在しますが、それで車に乗らなくなる人はいないでしょう。

つまり私たちは、排気ガスを絶えず排出できる状態にいるということです。あなたはどちらが雨を毒しているのだと思いますか？

私たちが出した排気ガスは、やがて空で酸性雨に変化します。その酸性雨が植物を枯らし、動物にも、海に住む魚にまで、悪影響を与えてしまいます。

大切な水産資源は、私たちによって減少しています。このままでは、海から魚が絶滅してしまう可能性すら存在します。

しかし反対に、私たちが普段の生活を意識しはじめたらどうでしょう。徒歩や自転車で行ける距離だったらなるべく車に乗らない。渋滞する時間帯は少し避けるようにする。これらの行動は、全く不可能というわけではありません。一人一人が意識していけば、多くの排気ガス削減に繋がります。そして、雨がより綺麗になります。雨が綺麗になったら、魚などの水産資源を守ることができます。

「空から降ってくる水」が、こんなにも環境に大きな影響力を持っていることを知りませんでした。今まで何も知らずに雨を嫌っていた自分が、途端に恥ずかしくなりました。

私は、いつもは意識せず車に乗っていたけれど、家族とも話し少しずつ自動車に乗る頻度を減らしていききました。今までより徒歩などの時間が増えると、「本当は必要なかった時にも便利な車に乗ってたんだ。」と実感することができました。自分たちの行動がほんの少しだけでも雨を綺麗にしていると思うと、胸がいっぱいになりました。

しばらくして家族と出かけた日に、雨が降っていました。その日は珍しく天気雨で、美しい虹がかかっていました。もう私は雨が嫌いではありません。登校時に雨が降っていても、まったく憂鬱だなんて思わなくなりました。いつまでも、この透き通る、綺麗な「恵みの雨」が降るように、これからも少しずつ行動していきます。